

2024年3月3日 主日礼拝 受難節 第3主日

説教題：「天の御国に生きる予約」 聖書箇所：ルカによる福音書23章26-43節（158頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讃美歌93 - 1 - 31 交読詩編：第66編1 - 12節（69頁）

讃美歌：83／288（恵みにかがやき）／287（ナザレの村里）／401（しもべらよ、み声きけ）／27

「今週の聖句」〔するとイエスは「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。〕（ルカ伝23：43）

「牧師室の窓」「ウグイスの初鳴き聞きて立ち止まる受難節には嬉しきひと時」

「相模野の堅香子の花咲きたりと伝える写真こころ浮き立つ」

(1)皆様おはようございます。いよいよ春3月を迎えました。雪国では雪解けが始まる頃です。朝のラジオ放送ではウグイスの初鳴きを聞いたという報告が寄せられています。私の住んでいる所でも初鳴きを聞きました。加えて、カタクリの花が咲くのももう少しです。万葉集には花がたくさん読まれています。万葉集は全部で20巻4516の歌がある中で、カタクリの花が歌われているのは一つだけです。（巻19・四一四三、大伴家持／もののふの八十娘子（やそをとめ）らが汲（く）みまがふ寺井（てらゐ）の上（うへ）の堅香子（かたかご）の花）その歌が歌われたのは富山県高岡市の静かな心安らぐ田舎道です。万葉集の編者でもある大伴家持はその場所に咲いている沢山のカタクリの花たちが楽しいお喋りをしながら井戸水を汲んでいる様にしたのです。早春の風景です。春は確実に来たのです。併し、その場所は今回の能登半島地震から遠くない所です。避難生活をされている方々のために祈ります。避難生活での厳しい衣食住生活が緩和されることを念じています。

(2)教会の暦では、今は受難節の半ばになります。受難節は四旬節・レントとも言います。イエス・キリストが十字架の刑罰で命を亡くされるまでの苦しまの期間であります。今月は第2週が交わり礼拝、第4週が読書と祈りの礼拝になりますので、本日の礼拝ではイエス様が十字架刑をお受けになる場面までの状況をルカによる福音書により学んで参りましょう。皆様も南板橋教会から派遣されたテレビ報道記者の一人として、現地・現場に身を置かれた積もりでご体験して頂きたいと思います。…ユダヤの人々にとっては最大の祭り日である「過越祭（すぎこしさい）」を目前に控えた木曜日にイエス様は弟子たちと夕食を済ませました。この夕食は最後の晩餐と言われています。晩餐とは言っても、パンとぶどう酒のみ、或いは、干し魚か焼き魚があったかもしれません。粗末な食事ですが、聖餐式の原点となる食事です。私は子供時代の食事の貧しさや、学生時代の下宿生活での空腹を体験してきましたので、共に食事をすることの嬉しさ、楽しさを実感してきました。…ですから、聖餐式のパンと葡萄ジュースという形式の食事方式は貧しさの中にも主なる神の温かさが人間を育てる、人間を鍛えたと感じています。

(3)最後の晩餐が終わり、イエス様と弟子たちはオリーブ山に行きイエス様はご自分の運命と言いますか命が無くなることを予知して祈りました。オリーブ山と言ってもエルサレムの町そのもの

が標高800mほどの山頂にある町なので、オリブ山は小高い丘となっている場所です。そこに近づいてきた群衆によってイエス様は捕らえられ、ユダヤの議会である最高法院で裁判を受けました。ローマ帝国が設置したユダヤ総督であるポンテオ・ピラトの元に送られましたが、祭司長・議員たちの主導により十字架での死刑が決定してしまいました。ユダヤ当局は安息日が始まる金曜日の日没までに死刑と埋葬が終わるようにしたのでした。イエス様が死刑執行の場所である**ゴルゴダの丘**（ルカ伝では33節に「「されこうべ」と呼ばれている所」と書かれています）その場所までの道のりをイエス様は木で作られた十字架を背中に担いで歩くことを強いられたのです。この道のりのことを、ラテン語で「**ヴィア・ドロローサ**」と呼ばれています。金曜日の午前中の出来事であります。

(4) 群衆がその道行きを見ている時に、「シモンというキレネ人」が捕らえられて、「十字架を負わせ、イエスの後ろから運ばせた」と書かれています。「キレネ」とはエジプトよりも西にあるアフリカ大陸で地中海に面した大きな町です。離散したディアスポラのユダヤ人も多く住んでおり、シモンはその出身で、過越しの祭りのためにエルサレムに来ていたと思われます。体の大きさが目に留まったのでしょうか。「シモン」とはヘブル語では「シメオン」と呼びます。ルカ伝2章に赤子のイエス様を抱き上げて神を讃えた人がシメオンでした。マルコ伝にはシモンの息子たちの名前が書かれています。そのうちの一人はロマ書16章13節に「主に結ばれている選ばれた者 ルフォス」と書かれています。シモンが後にクリスチャンとなり、その息子が初代教会で務めを果たした人物とも考えられます。…脱線しますが、私は就職してから仕事の必要でフランス語を学びました。フランス語を学ばれた方なら誰でも目黒士門（めぐろしもん）先生が書かれた「フランス広文典」と言う本にお世話になると思います。士門先生はご自宅にてご高齢で天に召されました。先生も奥様もカトリックのクリスチャンです。ご先祖が仙台藩の武士で明治の初めにクリスチャンになられた経緯を本に書かれて出版されました。私は先生にお会いしたことがあり、「シモン」と言う名前には特別の思いがあります。私の息子たちにも「士門」と言う名前を付けようと思ったくらいでしたが、聖書から別の名前を選んで命名しました。士門先生は天に召される直前まで仕事をされていたのです。私も斯くありたいと願っています。

(5) 27節には「(23:27)民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。」皆様は南板橋教会テレビ局から派遣された報道記者としてどの様に報告されますでしょうか。…私は信徒時代にあるテレビ局に出向して仕事をしたことがあり、報道のポイントを体験しました。28節29節には悲しみの大きさが語られています。30節には旧約聖書のホセア書10章8節の悲しみが、31節にはエゼキエル書21章3節の悲しみが書かれています。いずれもこれから起きる悲しみが旧約聖書に書かれている悲しみよりも更に大きいことを暗示していると言えるでしょう。32節からの場面では、イエス様が処刑される時に2人の犯罪人も同時に行なわれるのです。既にイエス様と2人の犯罪人は十字架の処刑台に括られ、地上から数メートルの高さに置かれていまし

た。34節の後半には〔(23:34)…人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。〕と書かれています。これは詩編22編19節にある〔(詩編22:19) わたしの着物を分け、衣を取ろうとしてくじを引く。〕を受けています。死刑執行を行なうローマ帝国の兵士がイエス様の衣服を分割しようとするこの状況は詩編が既に予告していたと理解することが出来る、その様に福音書の記録者は記しているのです。抑々、詩編22編は〔(22:2) わたしの神よ、わたしの神よ なぜわたしをお見捨てになるのか。…〕から始まり、(22:25) 主は貧しい人の苦しみを 決して侮らず、…助けを求める叫びを聞いてくださいます。…〕を経過して〔(22:32) 子孫は神に仕え 主のことを来るべき代に語り伝え 成し遂げてくださった恵みの御業を 民の末に告げ知らせるでしょう。〕と180度も変化しています。キリスト教の面白さ、興味深さは、物事が180度変えられてしまうことにあると私は思います。パウロの回心も回心と言う言葉が表している様にパウロの人生が180度変えられてしまうのです。私たちが自分の知恵や判断力で予測していたことが、或いは、悲観していたことが、良いことへと変えられてしまう勇気を、望みが与えられるのです。

34節の前半部分には、〔括弧書きで「そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」」〕と書かれています。〔括弧書き〕の意味は聖書の始めに「凡例(はんれい)」として書かれています。その意味は、新約聖書においては、後代の加筆とみられているが年代的に古く重要である箇所を示す、と書かれています。私が思いますのは、この十字架の処刑を見ていた、じっと見つめていた人、マタイ伝福音書には〔(27:55)大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。…(27:56)その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフに母のマリア、ゼベダイの子らの母がいた。〕と書かれていますことから、イエス様のお口の動きを注意深く読み解いていたのではないのでしょうか。あくまでも小説風の捉え方ですが、当時の庶民も旧約聖書の御言葉を日常的に誦(そら)んじていた人達ですから、口の動きを読み取ることが出来たと、私も一人の特派員として報告したいですね。

(6)35節～38節には十字架上のイエス様へのあざけりの様子が描かれています。その様な状況の中で二人の犯罪者の一人がイエス様を罵りました。併し、もう一人の犯罪者は全く異なることを話したのです。40節～43節〔(23:40)すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。/(23:41)我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」(23:42)そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。〕この人は自分自身の生涯の罪をこの瞬間に悔い改めたのです。パウロの回心と同じと言えるでしょう。と言うことは、私たちが洗礼を受けると言うことに他なりません。加えて言うならば、聖餐を受ける瞬間が42節の言葉に当たると私は思います。私もこの3月で洗礼を受けて51年目になります。昨年、受洗50年を記念して、6月に母教会の礼拝に参加しました。更に電車で北に行き、当時の牧師の奥様にお会いし、牧師の遺影のお写真に感謝の言葉を申し上げることが出来ました。私はこ

れから後の50年間を生きることは当然ながらできませんが、区切りをつけることが出来ましたことに感謝をしています。

(7)43節には〔(23:43)するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。〕と書かれています。42節の「わたしを思い出してください」と言う「予約」が、43節では「はっきり言っておく」と言う「確約」になっています。…私は就職してある都市の支店に在籍し、1年後に東京の外国業務部へ転勤しました。最初の仕事はテストキー（tested key）・サイファー（cipher）と言う暗号作り暗号解読から始めまして、外国為替を深く学ぶようになりました。聖書を読む、御言葉の真意を読むと言うのも、一種の暗号解読の様に思われます。聖書を繰り返し、繰り返し読み、暗号を解く鍵（キー）を発見して、サイファー（暗号）を解読し、理解を深めるのです。楽しい暗号解読です。…外国為替業務の1つに「先物予約」と言う技術があります。1ドル＝150円の現時点の価格を、数か月後、1年後の価格ではいくらになるのか、それを予約するのです。そして、その予約は、数か月後、1年後の状況がどの様であっても実行されねばならないのです。法律（民法）にも、予約という規定があります。人間の社会にあって、約束を守る、約束は守らなければならないのです。ましてや、主なる神の約束は、イエス様の約束は守られると私は信じています。43節〔するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。〕私たちにも、天の御国に生きる予約を与えられ、それは確約されているのです。これこそが「福音」「良き知らせ」であります。「天の御国に生きる予約」を与えられた者として、これからの人生の日々を歩んで参りたいと思います。

・・・お祈りいたします。